



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101
Facsimile: (045) 222-1103
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

FAO(国際連合食糧農業機関)日本事務所
2010年9月7日

LOJAPR10/24-No.173

プレスリリース

食料危機ではないが、より安定した市場が必要
FAO局長が現在の食料情勢についての見解を述べる

2010年9月7日、ローマ - FAO幹部は7日、食品市場は今後何年間もより不安定になるため、国際社会はこの状況に対応するための適切な手法を開発する必要がある、と述べた。

現在の国際食料市場の混乱に関する質問に対し、ハフェズ・ガネム経済社会開発局長は、中長期的には市場の安定化を促進するための手法を考案するためにG20が主導的役割を果たすことができるのではないかと述べた。

FAOのホームページに発表されたインタビューの中で、世界は再び2007-08年の世界食料危機に向かっているのかとの質問に対し、ガネムは以下のように返答した。

「市場のファンタメンタルズは健全で、2007-08年とは大きく異なっている。ロシアの小麦生産の不作にもかかわらず、今年の穀物収穫高は史上3番目の豊作で、在庫も多い。このような状況の下で、我々は、新たな食料危機に向かっているとは考えていないが、状況は注意深く見守っていくつもりである。

「したがって、全体の需要と供給状況について、心配する理由はない。しかし、例えば更なる悪天候や政府の政策が市場不安を増大し衝動買いを誘引したりして供給に再び衝撃を与えることがあれば、事態は変化しうる。」

質問 現在の状況は市場の不安定性と混乱であり、危機ではない、ということか？

回答 申し上げたように、危機の要素は見受けられないように思われる。しかし、市場が少なくとも以下3つの要因のために中期的に不安定さを増すため、今後、現在のような混乱が増えるであろう。1. 単収が農作期ごとに大きく変動する黒海地域の穀物生産者としての重要性の増加 2. 気候変動に関連した異常気象の増加の予想 3. 商品市場における非商業的取引主体の重要性の増加

質問 国際社会の対応はどうあるべきか？

回答 飢餓との闘いおよび経済安定化における食料市場の重要性を考慮すれば、FAOは国際社会が、例えばG20の主導の下に、乱高下の増大に対応する手法の考案を始めるべきだと考

えている。この中には市場規制の改善、市場の透明性の増大の確保、および緊急時在庫の適正水準の確立などの議論が含まれる。食料品の流動的で効率的な国際貿易を確保する手法も見つけ出さなければならない。

質問 現在の混乱における投機の役割は何か？

回答 今日見られる状況は投機家によって作られたものではなく、ロシアの干ばつに起因するものである。投機は実際のショックを増幅しうるが、ショックを作り出すことはできない。非商業的取引主体は食料市場に必須な流動性をもたらしており、それは歓迎されることである。

質問 F A Oは、最近2011年にまで延長されたロシアの小麦輸出禁止についてどのように考えているのか？

回答 一般論として、市場の不安定化を招くため輸出禁止措置は回避されるべきである。貧しい輸入国の食料価格の上昇を招き、より高い国際価格の恩恵を受けることができなくなるため、国内の生産者にも被害を与えている。

質問 危機がないのであれば、なぜF A Oは穀物政府間グループの緊急会合の開催を決定したのか？

回答 これは緊急会合ではない。この会合の目的は、参加国に最新の需給バランスを提供することで、参加国は自国で特に2007-08年危機以降緊急事態に対応するために実施した政策に関し、状況を説明するよう求められることになろう。

現状では、価格変動を制限するために各国が実施する措置や需給状況の動向に多くの不確定要素がある。この会合は、政策立案者および専門家を一堂に介し情報交換や現状に関する意見交換を対面で行うことを可能とする。より良い情報は、市場の透明性を増し、不安定性を減じることにつながる。また、将来の不安定な事態に備え、各国が中期的に何をなすべきかも話し合われるであろう。

ローマにて9月24日に会合を開催する穀物に関するI G G（政府間グループ）およびコメに関するI G Gは、小麦および粗粒穀物の生産、消費、貿易、在庫および価格に関する政府間協議および意見交換のフォーラムであり、通常の世界の穀物事情と短期見通しの評価も含まれる。

質問 世界の食料安全保障を強化するために各国がなすべきことは何か？

回答 先に言及した特定の問題以外に、長期的な食料安全保障のかぎは2050年までに90億人を超えると見られる世界の人口に必要な追加の食料を生産できるよう、開発途上国における農業部門へ投資することである。

英文URL：<http://www.fao.org/news/story/en/item/45178/icode/>